

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 24041

建築物名称	(仮称)幸町2丁目新築工事
建築主	株式会社フュディアルクリエーション 代表取締役 古川 伸樹
建築物の所在地	川崎市幸区幸町二丁目639番1、639番6、687番1、687番12
設計者氏名、建築士事務所名	朝倉 崇夫 株式会社朝倉崇夫都市建築設計事務所 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	3,238.00㎡
用途	共同住宅
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上7階
工事完了予定年月	令和8年5月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用、地中熱ヒートポンプ
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称) 幸町2丁目新築工事	階数	地上7F
建設地	神奈川県川崎市幸区幸町二丁目639番1、639番6、687番1、687番12	構造	RC造
用途地域	第2種住居地域、準防火地域	平均居住人員	98人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年5月 予定	評価の実施日	2024年9月27日
敷地面積	1,296 m ²	作成者	朝倉 崇夫
建築面積	423 m ²	確認日	2024年10月24日
延床面積	3,238 m ²	確認者	古川 伸樹

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)
<p>BEE = 1.4</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p> <p>環境品質 G</p> <p>環境負荷 L</p>	<p>標準計算</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q1 室内環境</p> <p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>LR1 エネルギー</p> <p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR3 敷地外環境</p>

2-4 中項目の評価 (バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Q のスコア = 2.8</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア= 3.6</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア= 2.7</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>Q3のスコア= 2.0</p>
<p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LR のスコア = 3.7</p>		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア= 4.4</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア= 3.1</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア= 3.4</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.4
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策	特になし		
1 生物環境の保全と創出			
2 まちなみ・景観への配慮			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上		1.6/4.3	1.8
LR-3 ■ 敷地外環境対策	特になし		
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	3.3
Q-1 ■ 室内環境対策	日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4相当を超える水準である。	1.8/2.1	4.2
2 2.1 2.1.2 外皮性能			
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備			
3.2 3.2.1 昼光制御	カーテンと庇にて昼光制御している。		
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策	特になし		
1 生物環境の保全と創出			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上		0.8/2.3	1.7
LR-1 ■ エネルギー対策	日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4相当を超える水準である。 BEI=0.70	4.4/5.0	4.4
1 建物外皮の熱負荷抑制			
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策	LGS使用している。 ODP=0、GWP=1の発泡剤を用いた断熱材を採用。	2.9/4.7	3.1
1 水資源保護			
2 非再生性資源の使用量削減			
3 3.2 フロン・ハロンの回避			
LR-3 ■ 敷地外環境対策	特になし		
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.1
Q-2 ■ サービス性能対策	特になし		
2 2.2 部品・部材の耐用年数		0.3/0.5	3.2
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策	特になし		
1 水資源保護			
2 非再生性資源の使用量削減		2.4/4.0	3.0
LR-3 ■ 敷地外環境対策	特になし		
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.2/0.4	2.8
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	3.0
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策	特になし		
1 生物環境の保全と創出			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上		0.8/2.3	1.7
LR-1 ■ エネルギー対策	日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4相当を超える水準である。 BEI=0.70	4.4/5.0	4.4
1 建物外皮の熱負荷抑制			
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策	特になし		
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **3.0**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策	日本住宅性能表示基準「3.劣化の軽減に関すること」で等級3相当。	0.1/0.1	5.0
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数			
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策	特になし		
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用		0.7/1.2	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策	日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4相当を超える水準である。 BEI=0.70	4.4/5.0	4.4
1 建物外皮の熱負荷抑制			
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階				重点項目					環境配慮設計の概要記入欄		評価点		重み係数		全体			
配慮項目	G	W	R	H	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体										
										評価点	重み係数									
Q 建築物の環境品質																		2.8		
Q1 室内環境																			3.6	
1 音環境																			3.8	
1.1 室内騒音レベル										室内騒音レベルを40dB以下とする。	-	-	4.0	0.50						
1.2 遮音										開口部遮音性能:T-2以上。	-	-	3.6	0.50						
1 開口部遮音性能										-	-	5.0	0.30							
2 界壁遮音性能										-	-	3.0	0.30							
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										-	-	3.0	0.20							
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										-	-	3.0	0.20							
1.3 吸音										-	-	-	-							
2 温熱環境																			3.3	
2.1 室温制御										-	0.35	3.3	1.00							
1 室温										-	-	3.7	0.50							
2 外皮性能										W	-	3.0	0.63							
3 ゾーン別制御性										-	-	5.0	0.38							
2.2 湿度制御										-	-	3.0	0.20							
2.3 空調方式										-	-	3.0	0.30							
3 光・視環境																			3.6	
3.1 昼光利用										-	0.25	3.6	1.00							
1 昼光率										2.0% ≤ [昼光率]	-	-	4.0	0.30						
2 方位別開口										-	-	5.0	0.50							
3 昼光利用設備										W	-	3.0	0.30							
3.2 グレア対策										-	-	3.0	0.20							
1 昼光制御										W	-	4.0	0.30							
3.3 照度										-	-	4.0	1.00							
3.4 照明制御										-	-	3.0	0.15							
3.5 照明制御										-	-	3.0	0.25							
4 空気質環境																			3.8	
4.1 発生源対策										-	0.25	3.8	1.00							
1 化学汚染物質										JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。	-	-	4.0	0.63						
4.2 換気										-	-	4.0	1.00							
1 換気量										-	-	3.6	0.38							
2 自然換気性能										居室面積の1/6以上の開閉可能な窓を確保している。	-	-	3.0	0.33						
3 取り入れ外気への配慮										-	-	5.0	0.33							
4.3 運用管理										-	-	3.0	0.33							
1 CO ₂ の監視										-	-	-	-							
2 喫煙の制御										-	-	-	-							
Q2 サービス性能																			2.7	
1 機能性																			2.5	
1.1 機能性・使いやすさ																				
1 広さ・収納性										-	0.40	2.2	0.40							
2 高度情報通信設備対応										-	-	3.0	0.60							
3 バリアフリー計画										-	-	3.0	1.00							
1.2 心理性・快適性																				
1 広さ感・景観										-	0.30	1.0	0.30							
2 リフレッシュスペース										-	-	2.0	0.40							
3 内装計画										-	-	3.0	0.50							
1.3 維持管理																				
1 維持管理に配慮した設計										-	0.30	1.0	0.50							
2 維持管理用機能の確保										-	0.30	2.5	0.30							
2.0 維持管理用機能の確保										-	0.50	3.0	0.50							
2.0 維持管理用機能の確保										-	0.50	2.0	0.50							
2 耐用性・信頼性																			3.0	
2.1 耐震・免震・制震・制振																				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)										-	0.50	3.0	0.50							
2 免震・制震・制振性能										-	0.80	3.0	0.20							
2.2 部品・部材の耐用年数																				
1 躯体材料の耐用年数										R	0.30	3.2	0.30							
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔										日本住宅性能表示基準「3.劣化の軽減に関すること」で等級3相当。	-	0.20	5.0	0.20						
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔										-	0.20	2.0	0.20							
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										-	0.10	3.0	0.10							
5 空調・給排水配管の更新必要間隔										-	0.10	3.0	0.10							
6 主要設備機器の更新必要間隔										-	0.20	3.0	0.20							
2.4 信頼性																				
1 空調・換気設備										-	0.20	2.8	0.20							
2 給排水・衛生設備										-	0.20	3.0	0.20							
3 電気設備										-	0.20	2.0	0.20							
4 機械・配管支持方法										-	0.20	3.0	0.20							
5 通信・情報設備										-	0.20	3.0	0.20							

3	対応性・更新性								3.4	0.30	2.5	1.00	2.7
	3.1 空間のゆとり								-	-	2.0	0.50	
	1 階高のゆとり								-	-	2.0	0.60	
	2 空間の形状・自由さ								-	-	2.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり								-	-	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性								3.4	1.00	-	-	
	1 空調配管の更新性								3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性								3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性								5.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性								5.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性								3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保								3.0	0.20	-	-	
	配管内配線により構造材・仕上材を痛めずに更新・修繕ができる。												
	配管内配線により構造材・仕上材を痛めずに更新・修繕ができる。												
Q3	室外環境(敷地内)								-	0.30	-	-	2.0
1	生物環境の保全と創出	G	W			H	-		1.0	0.30	-	-	1.0
2	まちなみ・景観への配慮	G					-		2.0	0.40	-	-	2.0
3	地域性・アメニティへの配慮						-		3.0	0.30	-	-	3.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上						-		3.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	G	W			H	-		3.0	0.50	-	-	
LR	建築物の環境負荷低減性								-	-	-	-	3.7
LR1	エネルギー								-	0.40	-	-	4.4
1	建物外皮の熱負荷抑制		W			H	日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4相当を超える水準である。		5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用		W			H	-		3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化		W			H	BEI=0.70		5.0	0.50	-	-	5.0
4	効率的運用								3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価								-	-	-	-	
	4.1 モニタリング		W			H	-		-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制		W			H	-		-	-	-	-	
	集合住宅の評価								3.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング		W			H	-		3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制		W			H	-		3.0	0.50	-	-	
LR2	資源・マテリアル								-	0.30	-	-	3.1
1	水資源保護		W			R			2.2	0.20	-	-	2.2
	1.1 節水								1.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用								3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無								3.0	1.00	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無								-	-	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減								3.2	0.60	-	-	3.2
	2.1 材料使用量の削減		W			R	-		2.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		W			R	-		3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		W			R	-		3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		W			R	断熱材		3.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		W			R	-		2.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		W			R	LGS使用している。		5.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避								3.7	0.20	-	-	3.7
	3.1 有害物質を含まない材料の使用								3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避								4.0	0.70	-	-	
	1 消火剤		W						-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)		W				ODP=0、GWP=1の発泡剤を用いた断熱材を採用。		5.0	0.50	-	-	
	3 冷媒		W						3.0	0.50	-	-	
LR3	敷地外環境								-	0.30	-	-	3.4
1	地球温暖化への配慮		W				ライフサイクルCO2排出率54%		4.8	0.33	-	-	4.8
2	地域環境への配慮								2.8	0.33	-	-	2.8
	2.1 大気汚染防止								3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	G	W			H			3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制								2.5	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減					R			3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制					R			3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制					R			3.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制					R			1.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮								2.7	0.33	-	-	2.7
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止								3.0	0.40	-	-	
	1 騒音								3.0	1.00	-	-	
	2 振動								-	-	-	-	
	3 悪臭								-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制								3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制								3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制								-	-	-	-	
	3 日照阻害の抑制								3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制								1.6	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策								1.0	0.70	-	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策								3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	3.0		○	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	3.0		-	-	-	-	-	-	-	○	-	○	-	○	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0		○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	1.0		-	-	-	-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	1.0		-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0		-	-	-	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	11.0		-	2.0	3.0	-	-	-	-	2.0	2.0	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	10.0		1.0	-	-	1.0	3.0	-	-	2.0	3.0	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC- 窓の日射熱取得率(η) -	外壁 -	床 -
U値(W/m2K) 窓システム -	屋根 -	
住戸部分システムU値 3.0	外皮UA値 0.6	η AC 2.3 η AH 0.6

3.1.1 昼光率

昼光率 2.6%

4.2.2 自然換気性能

自然換気有効開口率 23.6%

Q2 サービス性能

1.1.1.1 広さ・収納性

執務スペース .0㎡ /人 病床 .0㎡ /床 シングル .0㎡ ツイン .0㎡

1.1.2 高度情報通信設備対応

コンセント容量 0.0 VA/㎡

1.2.1 広さ感・景観

天井高 2.4 m

1.2.2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペース 0.0% レストスペース 0.0%

2.2.1 躯体材料の耐用年数

想定耐用年数 年

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

想定必要間隔 0 年

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

想定必要間隔 0 年

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

想定必要間隔 0 年

3.1.1 階高のゆとり

階高 0 m

3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率 0.0%

3.2 荷重のゆとり

床荷重 - N/m2

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数 60% 建物緑化指数 0%

3.2 敷地内温熱環境の向上

空地率 67% 水平投影面積率 20% 地表面対策面積率 50% 舗装面積率 47%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPIm 対象外断熱性能等級 等級4を超える 相当

2 自然エネルギー利用

自然エネルギー直接利 0 MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0%

通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%

3 設備システムの高効率化

BPI/BPIm 非住宅 - 住宅 - 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率 0.0%

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

特定調達品目断熱材 エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -

2.5 持続可能な森林から産出された木材

使用比率 0.0%

3.2.1 消火剤

オゾン層破壊係数(C 地球温暖化係数(GWP)

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数(C 0 地球温暖化係数(GWP) 1

3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数(C 地球温暖化係数(GWP)

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比 227% 棟間隔指標Rw 0.36			
地表面対策面積率 81.0%	屋根面対策面積率 0.0%	外壁面対策面積率 0.0%	
見付面積Sb 709㎡ 越風向と直交する最大敷地幅Ws 32.7 m	基準高さHb 9.52 m		
緑地 263㎡ 水面 ㎡	保水性対策面 ㎡	高反射対策面 ㎡	再帰性反射対策面 ㎡